



地域産業の課題に对应て、 行動するセンターを目指して

鹿児島県工業技術センター
所長 清藤 純一

長期にわたる景気低迷も緩やかながら回復の兆しが見えはじめたと云われているこの頃ですが、まだまだ先行きが不透明な状況に置かれています。

グローバリゼーションの進展、少子・高齢化への移行、情報通信の高度化などの時代の潮流の中で、産業構造の見直しをはじめ、社会経済の仕組みの根本的な変革が求められてきており、多くの課題、とりわけ技術の課題を乗り越えなければならない大変重要な時期を迎えております。

このような中で、本県産業は、これまでに蓄積された多様な技術、新しい科学技術、高度な情報システムの活用、創造性あふれる人材の育成などにより、既存産業の高度化や、新たな成長分野での事業展開を進めていくことが求められています。

当センターは、昭和62年12月設立され、今年で13年になりますが、地域産業の課題を解決する産業支援機関としての役割はますます高まっており、その期待の重大さを痛感いたしております。

企業などから持ち込まれる品質改善、トラブルの解明や新技術・新商品の開発など、年間3,000件以上の技術相談とこれに伴う現場での技術指導、同じく3,500件を越す依頼分析・試験などの数の多さもさることながら対象範囲の広さは、活用いただいている本県産業の潜在力と可能性の源泉であり、この背景があればこそ、新しい商品や事業に繋がる開発は着実に成果をあげられものと確信をいたしております。

このため今後も、「研究開発と技術支援」を

両輪として、①技術・技能の伝承や高度化など県内企業の「ものづくりの総合的支援」、②シラス、木竹、さつまいもなど本県の豊かな「地域資源の高度利用」、③企業が行う「新技術・新商品づくりの総合的支援」に最大限の努力を尽くしてまいり所存であります。

かかる業務を的確に推進するため、次に平成12年度の重点活動方針を示します。

(1) 研究開発機能の充実強化

自らのポテンシャルを高めつつ、新規テーマ、終了テーマに対し、内部及び外部評価による客観的・第三者的評価を行い、研究方針決定に誤りなきを期してまいります。

(2) 情報発信と双方向交流の促進

企業、大学研究者等へのタイムリーな情報発信と職員の積極的な企業訪問を通じ、産学官連携による研究交流・共同研究の促進を図り、現場感覚による実用化、新産業創出を目指した活動を進めていきます。

新産業・新分野の創出は重要な課題であり、特に産学官の連携は有力な方策であると考えます。

かごしま産業支援センターはじめ、企業、大学、各団体等との緊密な連携に努め、多様化、高度化する産業界ニーズや社会経済環境の変化に伴う諸課題に対し、的確かつ迅速な対応を図ってまいります。

最後に、今後もセンター職員一同、皆様方の期待に応えられるよう、一層前向きな研究開発、技術支援に努めてまいります。どんな些細なことでも構いませんので、是非、当センターをもっと気軽にご利用いただくようお願い申し上げます。